

製品名: COL4A2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09186**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	150kDa

抗原情報

遺伝子名	COL4A2
別名	COL4A2; Collagen alpha-2(IV) chain
遺伝子 ID	1284.0
SwissProt ID	P08572
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン IV α 2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

背景

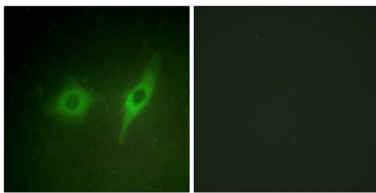
この遺伝子は、基底膜の主要構成成分である IV 型コラーゲンの 6 つのサブユニットのうちの 1 つをコードしています。カンスタチンとして知られるこのタンパク質の C 末端部分は、血管新生および腫瘍増殖を阻害します。IV 型コラーゲン遺伝子ファミリーの他のメ

ンバーと同様に、この遺伝子は他の IV 型コラーゲン遺伝子と頭対頭の立体構造を形成しており、各遺伝子ペアは共通のプロモーターを共有しています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン:IV 型コラーゲンのアルファ鎖は、C 末端に非コラーゲン性ドメイン (NC1)、長い中央三重らせんドメイン(三重らせんに柔軟性をもたらす可能性がある)の G-X-Y 反復の頻繁な中断、および N 末端の短い三重らせん 7S ドメインを持ちます。 ,機能:IV 型コラーゲンは、糸球体基底膜(GBM)の主要構成成分であり、ラミニン、プロテオグリカン、エンタクチン/ニドゲンとともに「金網」の網目構造を形成します。血管新生と腫瘍の成長を強力に阻害します。 ,PTM:トリペプチド繰り返し単位の 3 番目の位置にあるプロリン (G-X-Y) は、鎖の一部またはすべてで水酸化されています。 ,PTM:NC1 ドメインの三量体構造は、Lys 残基と Met 残基間の共有結合によって安定化される可能性があります。 ,PTM:IV 型コラーゲンには、分子間および分子内のジスルフィド結合に関する多数のシステイン残基が含まれています。これらのうち 12 個は NC1 ドメインに位置し、既知のすべての IV 型コラーゲンで保存されています。 ,類似性: IV 型コラーゲン ファミリーに属します。 ,類似性: 1 つの IV 型コラーゲン NC1 (C 末端非コラーゲン性) ドメインを含みます。 ,サブユニット: IV 型コラーゲンには、アルファ 1(IV) からアルファ 6(IV) までの 6 つのアイソフォームがあり、それぞれが他の 2 つの鎖と三重らせん構造を形成して IV 型コラーゲン ネットワークを生成できます。 ,

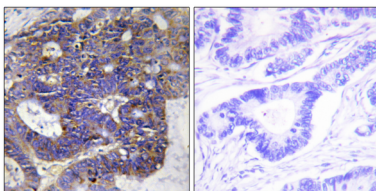
研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、がんにおける経路、小細胞肺がん、

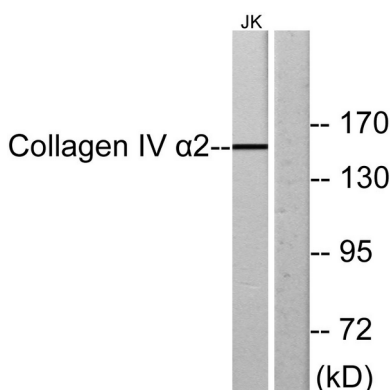
画像データ



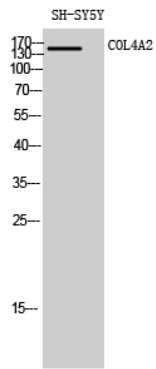
コラーゲン IV α 2 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



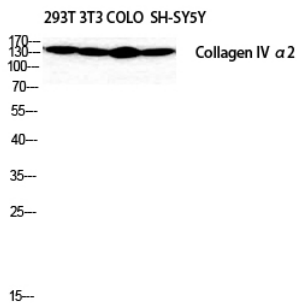
パラフィン包埋ヒト大腸癌組織のコラーゲン IV α 2 抗体を用いた免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



コラーゲン IV α 2 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈の COL4A2 ポリクローナル抗体を用いた SH-SY5Y 細胞のウェスタンブロット解析



SH-SY5Y 293T NIH-3T3 COLO 細胞の COL4A2 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いたウェスタンブロット解析